

発表に向けてよりよい発表のしかたを身につける。

○発表形態：ポスターセッションで各班3分、質疑応答3分を10回繰り返す。なお、その間、班員は交代で他班の発表を聞きに行く。

○対象：2年生

研究テーマ

班	研究テーマ	タイトル	活動内容
1	松浦の知名度を上げる・人口増加	松浦名物ガチャボン	松浦の名物（アジフライ・マグロ）などをモチーフにしたキャラクターを作成し、それをガチャボンにして設置する。
2	お菓子開発	HAPPY菓子改革	新しい松浦の銘菓を開発する。
3	フードフェスタを開催	こーてって！～松高フードフェスタ～	お店を集めてフードフェスタを開催し、松浦の知名度を上げる。
4	ゲームを使って町おこし	オフライン	Eスポーツイベントを開催し、松浦市外からも人を集めて観光客増加につなげる。
5	廃校を活用して自然の家にする	松浦あじおぶる自然学園	廃校を修復して利活用し、喜んでもらえるような場所を提供する。
6	少子化	子育てお助け倶楽部	松浦市が取り組んでいる子育てに関する情報を広める冊子を作成する。
7	松浦の社会減	with松浦	県外の中高生を呼び込み、松浦に宿泊して松浦の良さを体験するようなプログラムを作り、実際に泊まりに来てもらう。
8	ゴミ環境問題	ゴミリメイクで幸福を	松浦の海岸などでゴミを拾い、リメイクできるものはアクセサリなどにリメイクする。
9	農業支援（農業の魅力を伝えることで農業の人口問題を解決する）	長崎の廃れてしまった伝統野菜を復活させる！	松浦と関係していて今は栽培されていない「木引かぶ」を栽培する。さらに地域の飲食店と協力して「木引かぶ」を使ったレシピを開発し、販売してもらい、SNSで広める。
10	学生が集まる場所が少ないこと	空き家を活用し学生が集まることのできる場所を創ろう	空き家を、現在の「青プラザ」のような学生が集まって話したり保護者を待ったりする場所として活用したい。
11	観光客の増加	バイクMT23・フードイベント	バイクの展示会などを開き、観光客を呼び込みたい。そこで、グルメイベントも開催したい。
12	民話を活用し地域活性化	カッパの頭と松浦の経済に潤いを	民話「河童と河太郎」を広め、そのキャラクターのシール等を使って松浦の特産品を広めたい。また商品開発をしたい。

【外部参加者】

保護者、九州電力、松浦市教育委員会・学校教育課、市少年センター、松浦高校評議員、県立高校、運営指導委員、市文化観光課、市教育総務課、市産業振興課、市政策企画課、県立大（学生9名）等 26名



校内発表会（校内選考会）

- 日時：令和5年9月27日（水）14：05～15：45
- 目的：「まつナビ・プロジェクト」の実践活動について、地域の方々へ生徒が主体的に地域課題について考え、実践した成果を発表し、周知をはかる。
- 発表形態：パワーポイントを用いたプレゼンテーションとし、1班につき5分程度で発表する。
- 対象：2年生

評価について

- ・評価は外部の方々をお願いする。初めて発表を聞く人でも、活動のようすがわかるように、プロセスを丁寧に発表すること。
- ・評価基準は、以下の松浦高校のルーブリックによる評価（一部）で行う。各項目5点で審査員1人あたり合計25点満点。審査員4名で25×4＝100点で順位を決定する。

	知識・技能		思考力・判断力・表現力等		
	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力
評価基準	①入手した情報や知識・技能についてまとめることができているか。	②パワーポイントに見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	③課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができてきているか。	④地域や班活動で協働する力がついているか	⑤今後の展望（提言・実践）が明確か

【外部参加者】

県内公立高校、市商工会議所、市議会議長、鎮西学院大、長崎県立大学（学生含む）、慶応義塾大学 SFC、長崎大学、地域の方々



課題研究発表会

- 日時：令和5年10月25日（水） 13：00～15：45
- 目的：「まつナビ・プロジェクト」の実践活動について、地域の方々へ生徒が主体的に地域課題について考え、実践した成果を発表し、周知をはかる。
- 内容：9月27日（水）に校内発表会（選考会）を行い、12班の中から選ばれた5つのプロジェクトが、この課題研究発表会で発表を行い、その他の班は、ポスターセッションを行う。
- 場所：松浦市文化会館 ゆめホール（長崎県松浦市志佐町浦免1110）

○日程

- 13:00～13:50 ポスターセッション（本会で発表しない班の取組紹介）7班
14:10～14:20 開会行事 校長挨拶
14:20～15:35 発表（5分発表＋7分質疑応答＋3分移動）代表5班
15:35～15:45 閉会行事 講評：高校教育課高校魅力化班

【外部参加者】

松浦市長、住商エアバッグ（株）、KTN テレビ長崎、鎮西学院大学、中興化成工業、九州電力、PTA 会長、市政策企画課、運営指導委員、伊万里まちなかラボ、長崎県立大学、県企画部政策企画課、市議会議員、長崎大学 等 34名参加



（2）主に主体性・自己認識を高める活動【実施計画】

進路別探究活動

生徒一人ひとりのキャリア形成により直結した探究活動ができるように、今年度から年間計画に取り入れた。想定する活動内容としては、看護師希望と松浦中央病院等との連携や保育士志望者が小学校や幼保との連携がある。また、「まつナビ」での活動も可とした。

キャリアアップデー

○令和6年2月21日（水）

2年生が就職班と進学班に分かれて、県内事業所もしくは長崎県立大学を訪問した。

○令和6年3月12日～14日

松浦市内事業所にて2年生全員がインターンシップを実施した。



ハウステンボスでの説明



九州テンでの説明



長崎県立大学シーボルト校での説明



長崎県立大学佐世保校での説明

1 - 5 地域素材を活用した授業実践

「地域科学科」としての特色をより一層明確にし、地域課題探究学習と教科学習との関連を強めるための取組として、以下の内容で令和5年度から取り組み始めた。

(1) 目的

地域との連携による教育活動の充実を図り、生徒の地域に対する理解を促し、地域への愛着を増進するため、各教科(国語、地歴公民、数学、理科、英語、保健体育、商業)において、地域を素材とした授業開発を進める。

(2) 計画

- ・年度当初 各教科で開発する授業概要(単元、時期など)について検討する。
- ・授業構想に目処がついた段階から、長崎大学教育学部の各専門領域の先生方に助言をいただく。
- ・授業については、小・中学校の先生方をはじめとして地域の方々に公開するとともに、指導いただいた長崎大学の先生方に指導・助言をいただく。
- ・文部科学省の研究指定を受けている令和5・6年度の2年間、授業開発を進める。
- ・令和7年度から、学校設定科目(1年生1単位)とする。

(3) 令和5年度の実施内容

教科	授業内容	授業の目的	まつナビとの関連	学年	実施日	長崎大学・外部組織等からの支援
国語	○「言語文化」で実施 ○「松浦の民話」等の題材に、よく知られている民話も、地域によって異なることを知り、民話の比較を通して民話の存在意義を考える。	松浦の民話を身近なものとして味わい、地域に対する愛着を深める	探究テーマ	1年	10月20日 13時	教育学部 吉良史明准教授
地歴公	○「地理総合」で実施 ○志佐中学校との合同地域調査を実施。 3つのルート(西、東、南)を設定し、	地域調査法を学ぶ	探究スキル	1年	11月10日 3時	教育学部 大平晃久准教授

民	各ルートに6つの視点を置き、地域調査を行う。テーマは「松浦市のよいところ」を探す。					志佐中学校
数学	○「数学」の「データ分析」の中で、松浦市の様々なデータ(変量)の相関の有無を「相関係数」の値で判断し、自分たちの主張する根拠となるデータを探す。 ○近隣市町のデータを比較することで、松浦市の強み・弱みを理解する。	相関係数の求め方を理解し、その結果をもとに身近なデータを分析・判断する力を養う	探究スキル	1年	11月9日 13	教育学部 前原由喜夫准教授
理科	○「科学と人間生活」のなかで、カーボンニュートラルに関する事象を扱う	データ分析、論理的思考力、プレゼンテーション力	探究テーマ	1年	9月14日 13	教育学部 林幹大助教 九州電力松浦火力発電所
英語	○「英語コミュニケーション」で実施 ○リサイクルの導入から、アップサイクルの紹介をし、実際にアップサイクルできるものを考え、作ってみる。	課題発見力、プレゼンテーション力	探究テーマ・スキル	1年	10月19日 13	教育学部 山岸利次准教授
保健体育	○「保健」で実施 ○松浦市の健康指標「いきいき松浦21」を活用して、現状を知り、生活習慣病・特定検診に焦点を当てて、受診率の向上に必要な手立てについて生徒自身が考え、具体策を考案した。	課題発見力、プレゼンテーション力	探究テーマ・スキル	2年	9月19日 13	教育学部 松和夫教授 松浦市健康ほけん課
商業	○売れる商品パッケージの手順の説明後、松浦市の特産品であるいりごと、アジフライ型のお菓子のパッケージを作成し、11月18日の合同販売実習で商品に生徒が作成したパッケージを貼り販売しました。授業当日は、西村教授によるワールドカフェに内容を急遽変更	課題発見力、プレゼンテーション力	探究テーマ・スキル	1年	11月10日 13	経済学部・アントレプレナーシップセンター長 西村宣彦教授

(4) 教科の実践に対する長崎大学からの指導・助言

教科	長崎大学の先生方による			授業について 授業者の感想
	授業前の支援・助言	授業時の支援	授業後の支援・助言等	
国語	事前に指導案や教材を見ていただき、新たな着眼点などを教えていただいた。 授業で紹介する「神道記」について、自分ではインターネットで文献の一部しか探すができなかったのだが、吉良先生から原典のコピーをいただくことができた。 同じ素材の民話は日本各地にあるようだが、相違する部分にこそ地域性が表れるのではないかという私見について、助言をいただいた。	授業を参観してくださった。 授業の最後に、今回の授業が大学での学問につながるよう、生徒向けに話をしてくださった。	授業についての感想を話していただいた。 また文献(データベース)の入手方法について教えていただいた。	一番ありがたかったことは、民話に対する私見を生徒に話しているの不安に思っていたなかで吉良先生に後押ししていただき、心強く授業をやれたこと。
地歴公民	フィールドワークの6つの視点についての具体的な助言	各ルートの振り返り 今後の視点についての教示。(例)まだ○○のような歴史的なものがあつた。など)	特になし。	当日は寒い雨の中での調査となったので、予備日の設定等、日程等の変更も検討すべきであった。生徒は中学生と一緒に一生懸命調査を行っていた。
数学	教員側がデータを用意するのではなく、本来なら「高校生がアンケートで実際に収集したデータ」の方が使いやすいのでは、との助言をいただいた。	生徒グループのパワーポイントによるデータの「相関」の発表を聞いていただいた。 そのあと、発表内容等に関し、アドバイスを質問をいただいた。	前原先生が研究なさっている内容(スマホ等の使用時間と学習等の相関に関するデータ)について、説明を受け、生徒からの質問にも応じていただいた。	「相関係数」に対する理解が深まったようでした。今後の「まっつナビ」(探究活動)に生かしてもらえれば、と思います。
理科	単元とのかかわりや授業内容に対する助言	九州電力の講義中の生徒の見取り方	今後の授業方針や展開の助言	地域素材を生かした授業づくりの一助と

英語	どのような展開になるかの質問	についての助言 特になし	ネットだけではなく、書籍での調べ活動もおもしろい	なりました。 短いスパンでは時間が足りないので、長期でする必要がある内容だったが、進度との調整で、長く時間を確保するのは難しい。
保健体育	松浦市の保健師とのチームティーチングで授業を進める生徒自身がいかに自分自身の課題として捉えることができるか	生徒の学習活動、学習成果についての講評	生徒たちの検診率向上のためのキャッチコピーが非常に分かりやすく良かったのは、生徒自身がよく考えた結果ではないか。保健師への質問の時間を設けるなど、生徒がより深く学び考える機会を確保すると、さらに良い授業につながるのではないかと。	日常的な授業形態では、感じる事が難しい「身近さ」を松浦市で働く保健師の先生からの助言によって実現することができたと思う。生徒自身の感想からより深い学びにつながったと感じている。
商業	2つの商品パッケージ作成において、ターゲットの選定、現状分析と作り手の想いのギャップを分析した上でのアイデア創出が望ましいとの助言等をいただいた。	予定を変更してワールドカフェ形式の授業を実施していただいた。誰でも気軽に発言できる雰囲気の中で生徒たちは活発に意見を出し、良い経験を積んだ。	授業後、会議室で、授業の振り返り、大学での取組等、貴重なお話をお聞きすることができた。	実際は、1年生では具体的にまだ商業科目を学習していないので、7、8時間授業をいただき、どうにか実施できた。



地域素材を活用した数学の授業



地域素材を活用した商業の授業



地域素材を活用した国語の授業



地域素材を活用した英語の授業

1 - 6 ルーブリックの改善

昨年度の評価検証から、学びアドバイザーである長崎大学藤井先生の助言をもらいながら、本校活性化ミーティングにて、ルーブリックのブラッシュアップを行った。
昨年度のルーブリック

育成を図る資質能力	テーマ設定力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション力 (傾聴・対話・発信)
評価基準	①現状分析がしっかりできているか	②フィールドワークの効果がえられるか	③今後の展望（提言・実践）が明確か	④パワーポイントに見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か
評価の観点	思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動1：省察・評価）	学びに向かう力・人間性等（レジリエンス能力）	論理的思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動2：「計画」部分）	知識・技能（プレゼンテーション技術）・思考力・判断力・表現力等（リーダーシップ・対話力・協調性などの社会的能力）
段階（規準）				
1	現状を語るができている。	フィールドワークの内容について話すことができている。	これから行おうとしている予定を表明することができる。	パワーポイントのスライドを、規定に沿ってつくり、発表することができる。
2	現状とそこに至るまでのプロセスを断片的に語るができている。	フィールドワークの内容と、その成果について話すことができている。	これから行おうとしている予定を具体的に表明することができる。	文字の大きさや色などを変えて「見やすさ」に工夫を加えることができ、時間内に発表することができる。
3	現状と、そこに至るまでのプロセスを、一連のストーリーとして語るができている。	フィールドワークの内容とその成果および課題について話すことができている。	残り期間で現実的に可能な展望（提言・実践）を具体的に表明することができる。	図や表なども使った視覚的な工夫を加えたパワーポイントスライドを作成でき、時間内に、かつ原稿にあまり目を通さずに発表することができる。
4	現状と、そこに至るまでのプロセスを語ることも、その要因がどこにあるのかについて言及・表明することができる。	フィールドワーク前の仮説に基づいて、その内容・成果・課題について整理し話すことができている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果があると想定できる活動について、道すじを立てて、具体的に表明することができる。	パワーポイントのスライドに加え、話し方にも工夫を加えて、聴衆を引きつけようと努め、顔を見ながら行うことができる。
5	達成目標を前提に、現状までのプロセスを言語化・可視化し、到達している点と追加検証を加える必要がある点とを明確にできている。	フィールドワーク前に仮説に基づいたデータ検証や、現地で直面した課題に今後向かうとする姿勢が明確に表明できている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果のある具体的な提言等、および自分たちおよびその周囲が持続可能な形で実践に参画できるようにするための方略を道すじを立てて、表明することができる。	視覚情報としてのパワーポイントと、発表の発言内容との役割を明確にし、聴衆である生徒に対し対話を促しながら相互に考え、説得力を持った発表を時間内で行うことができる。

今年度のルーブリック

評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力等			主体的に学習に取り組む態度	
育成を図る資質能力等	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力
評価規準	入手した情報や知識・技能についてまとめることができるか	パワーポイントやポスターに、見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができているか	地域や班活動で協働する力がついているか	今後の展望（提言・実践）が明確か	課題研究活動と自分の進路がつながっており、その実現に向けて行動できているか	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとする態度が醸成されているか
段階（基準）							
C	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてについては、まとめることができていない。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができていない。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できていない。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できていない。	課題研究活動の成果と課題を示すことができていない	自分の将来について考えることができていない。	ふるさとに貢献しようとしていない。
B	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめようとしている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫をしようとしている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定しようとしている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解しようとしている。	課題研究活動の成果と課題を示そうとしている。	自分の将来を考えようとしている。	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとしている。
A (ふつう)	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができる。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができています。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができている。	自分の将来について考えることができる。	課題研究活動が、ふるさとに貢献しようとする態度につながっている。
S	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめ、比較・分類ができています。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、時間内にかつ原稿をあまり見ずに聞き手を見ながら発表ができています。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。協働ができている。	課題研究活動の成果と課題を道すじを立てて表現することができている。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成（進路実現）と結びつけた課題研究活動の計画を立てている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明でき、それが実践活動まで結びついている。
SS	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た情報や知識をまとめ、比較・分類した上で要・不要の取捨選択ができています。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、身振り手振りを加え、時間内にかつ原稿に目を通さずに聞き手を見ながら発表ができています。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた実現可能な課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。リーダーシップを発揮しながら、協働ができている。	課題研究活動の内容を整理・分析し、成果と課題を道すじを立てた将来の展望を表現することができている。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成（進路実現）に向けた計画を立て、その実現に向けた課題研究活動ができています。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明でき、何度も実践活動にチャレンジできている。

(1) 昨年度の課題

- ・評価規準の標記が生徒にとって難しすぎて、自己評価を行うことが難しい。
- ・ルーブリックによる生徒の自己評価を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。また、ルーブリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させていく。
- ・ルーブリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させ、生徒にとって分かりやすいルーブリックを作成する。

(2) 今年度の改善と成果

- ・生徒（2年生）に自身が「身に付けたい力」に関するアンケートを行い、それらの結果を元に、「7つの育成を図る資質能力（情報理解・収集力、プレゼンテーション力、テーマ設定力・課題解決力、コミュニケーション力、論理的思考力、キャリア形成力、ふるさと貢献力）」をピックアップすることができた。（生徒の声をルーブリックによる評価に反映できた。）
- ・従来の「難しい専門用語」を生徒や地域にも理解しやすい言葉で示したものにブラッシュアップを図ることができた。
- ・生徒の自己評価を毎回の活動後に実施できた。これを数値（SS～Cランク）で示すことによって、ランクが上がったり、下がったりする生徒へ教員が声掛けをするタイミングがわかりやすくなった。

*今年度の検証については、p 6 2～p 6 4で説明する。

1 - 7 松浦高校における事業の管理

地域科学科における、「資質・能力」の育成を目指した各教育活動の充実及び各教育活動の関連性の強化を図るため、P D C Aサイクルに基づく組織マネジメントを以下の体制で推進した。

地域科学科・活性化ミーティング

校長、教頭、プロジェクトリーダー、コーディネーター等

地域科学科・プロジェクトチーム

プロジェクトリーダー（主・副）、コーディネーター、各学年の担当者等

【成果】

各教育活動の関連性を強め、「資質・能力」を育成する活動としていくための企画・調整（カリキュラム・マネジメント）の推進を図った。

各学年の「年間計画表」を策定

・活動単位ごとに身に付けさせたい「資質・能力」を明示し、活動の目標を明確化した。

・年間計画に基づいた実践について検証・改善を行った。

・12月以降は、「まつナビ・プロジェクト」の年間計画の見直しをはじめ、外部機関等の専門家にも助言をもらいながら、令和6年度の計画を作成した。

具体的な活動内容や目的の共通理解とマインドセットを行うために、毎週木曜日にプロジェクトチームのメンバーに管理職を加えた意見交換等を実施し、まつナビ・プロジェクト活動の充実を図った。

【課題】

活性化ミーティングのメンバーが各学年の中心となり、活性化ミーティングでの検討内容を各学年担当者に浸透させること。

各教育活動の目標を各学年担当者間で共有しながら、教育活動を推進していくこと。
教員間の意識やファシリテート能力に格差があること。

【次年度への反映】

まつナビ・プロジェクトを中心とした学びの持続可能性を高めるため、活性化ミーティングを中心とした校内体制を校内に根付かせる。

活性化ミーティングにおける、普通科改革に係る各事業や実践について、それぞれの区切りごとに検証を行う。

生徒の自己評価等にもとづいて、各教育活動の改善案を検討する。

運営指導委員会・コンソーシアム会議における意見等を踏まえ各教育活動の改善案を検討する。

活性化ミーティングの内容を全教員にフィードバック（情報提供）し、活動の目的の目線合わせを行う（スキル格差を小さくする）。

地域や生徒と学校の三者協議会の実施（ルーブリックのブラッシュアップ）。

資料（例）9月14日のまつナビ・プロジェクトチームによる活性化ミーティング資料

第15回 MNP チーム 活性化ミーティング 令和5年9月14日	校 長	3 学年 主任	2 学年 主任	1 学年 主任	記
出席：【活性化ミーティング】					

[議 題]

1. 昨日の振り返り

(1) プレまつナビ ... 発表データは1つのタブレットに集約する。

今後... まつナビ用のタブレットを準備する

まつナビ用のビデオカメラを購入できないか

動画は生徒たちに交代で撮らせてはどうか 教員が編集せずすぐに Teams を通じて該当生徒(班)へ渡せる。まつナビ専用タブレットに保存し、年度別に発表動画を蓄積していく。(個人タブレットだとそれができない)

(2) まつナビ ... プレまつナビの反省を生かして。動画の撮り方

(ただし、念のために全体を撮るカメラは必要)

現在、22名の外部の方が訪問予定

評価員は、〇〇〇〇先生(鎮西学院大) 〇〇〇〇さん(KUNUGI)

〇〇〇〇さん(SFC) 〇〇〇〇さん(商工会)

〇〇〇〇先生(県立大)でどうか?

講評は運営指導委員会の座長でもある〇〇〇〇先生でどうか

(3) ポストまつナビ ... 総務省政策アイデアコンテストに「廃油の活用」を出す。

10月上旬に提出(書類審査を通れば、12月にオンライン発表)

2. 来週の活動

(1) プレまつナビ ... 校内発表会参観

(2) まつナビ ... 校内発表会

(3) ポストまつナビ ... 論文原稿締切：12月23日 製本へ

*生徒の活動のようすの撮影(写真)をお願いいたします。 HP、報告書へ

3. 今後の活動

(1) 個人構想キックオフ講座(1年生)...10月4日(水)14:05~

伊万里市 〇〇〇〇さん

(2) 課題研究発表会(2年生)...10月25日(水)13:00~

(3) 各種データ

まつナビ・プロジェクト

R5MNP

R5まつナビ

0927 校内発表会

2 実施計画

2 - 1 活動目標

中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献

2 - 2 実施計画

地域及び学校活性化を図る教育活動等への支援体制（コンソーシアム等）の構築・充実

2 - 3 運営指導委員会

(1) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
無	佐々木 龍二	前長崎大学サテライトオフィス松浦コーディネーター、元松浦市立中学校長
長崎県立大学	本田 道明	学長補佐
鎮西学院大学	加藤 久雄	現代社会学部 教授
西海みずき信用組合	前田 幸輔	地域振興室長（前日本政策投資銀行）
自営業	川浪 剛人	前まつうら創生推進室長
県企画部政策企画課	小柳 正典	企画監

(2) 運営指導委員会の取組

第1回：令和5年5月26日(金) 14:00～15:30 松浦高校会議室

委員からの主な意見

- ・中学校との連携もループリックにあったら良いのでは。
- ・ループリックは3次元的に作成したほうがわかりやすいのでは。
- ・生徒が作成して松浦市に申請する支援金の申請書は作成だけでなく、プレゼンを絡めると良いのでは。報告書までを一つのパッケージにできれば良い。将来的に支援金の支援先が、市から応援団になると面白い。
- ・サイバーセキュリティボランティアは、小学校だけではなく、高齢者施設などにも訪問し、地域コミュニティができないか。松浦の地域資源として音楽隊などもある。
- ・仕事図鑑は地域連携教材としてよい。ただ、誰に読んでほしいのか。中学校との連携を意識して、中学生向けにしてはどうか。

第2回：令和6年2月8日(木) 10:00～12:00 松浦高校会議室

委員からの主な意見

- ・グローバルな視点での学びの弱さを克服させるには、地域に住む外国人に注目するのもいいかもしれない。
- ・ボランティア活動で成果を出すためには、伝統芸能に取り組んだり、吹奏楽部で参加したり部活動単位でも考える。また、一時的なものではなく継続的な活動にする。
- ・仕事図鑑についても、完成で終わりではなく、フォントは読みやすいのか、最後の写

真は説明が必要ではなかったのか、など自己満足で終わらない問いかけが必要。

- ・論理的思考の向上については、思考フローを書かせ、考えや関連性を図化させるとよい。
- ・探究スキルを身に付けることは経験値を上げることしかないように考える。座学的なスキル学習をすることも重要であり、学習の後に使って実感させることも必要。

【次年度への反映】

- ・論理的思考力を向上させるために、大学等の協力を得ながら、「思考フロー」を文章化、図化させるための講座を実施する。
- ・探究スキルを身に付けさせるために、年間活動計画の見直しを行い、1年生は講演会や研修会后、2年生では各種発表会のあとの振り返りについて十分な時間を確保する。

2 - 4 コンソーシアム会議

(1) コンソーシアム会議の体制

所属	氏名	主な実績
松浦市	友田 吉泰	市長
松浦市議会	谷口 一星	議長
松浦市教育委員会	黒川 政信	教育長
松浦市小中学校校長会	年徳谷辰也	副会長（志佐中学校長）
松浦市商工会議所	稲沢 文員	会頭
松浦高等学校PTA	川下 高広	会長
松浦高等学校同窓会	藤田 英敏	会長
長崎大学教育学部	藤本 登	学部長
長崎県立大学地域創造学部	バロリ・ブレンディ	講師
株式会社エミネントスラックス	前田 周二	代表取締役社長
松尾農園	松尾 秀平	代表
長崎県教育庁高校教育課	田川耕太郎	課長

(2) コンソーシアムの取組

第1回：令和5年6月13日（水）14：00～15：30 松浦高校会議室

構成員からの主な意見

- ・ループリックがよくなった。自己評価を一つ上のステージに上げるためにどのようにしていけばいいか。また、大学との連携案で大学生との伴走をする場を教員がどのようにつくるのが課題。
- ・まつナビのテーマがこれからの社会のいろいろなところで必要になっていることを生徒が理解できているか。

- ・職員研修をOJTで行うのであれば、年間計画に入れなければならない。企画は県の教育センターや大学と連携していくことも可能ではないか。子供たちがどのような力を身につけるために学んでいるのかわかる工夫をしなければならない。
- ・教員が地域のことを知らないことも多いので、知ろうとする経験は大切である。
- ・新時代のまつナビになっている。まつナビの活動で地域を科学するなかで、研究指定校に選ばれた。生徒たちがまつナビを通して自分の将来につなげることができればよい。面接、就職、コミュニケーション力、申請書を作る能力など。しかし、幅を広くしすぎると、子供たちがどうすればいいかわからない。そこで、市が力をいれていることとつなげて絞り込むこともあっていいのではないか。

第2回：令和6年2月8日(木) 14:30～16:00 松浦高校会議室

構成員からの主な意見

- ・子どもの情報はスマホから多いので、気になることや興味のあることしか検索しない。グローバル視点での学びの弱さの原因はここにあるのかもしれない。
- ・「探究性を高める」ことは、アンケート結果を見ても課題だと思う。
- ・ルーブリック評価が素晴らしい。指導と評価の一体化ができる。
- ・探究に向かう力。与えられたものに向かうのではなく自分事として考える力が必要。与えられたものでは面白くない。パフォーマンス評価やクエスト課題を活用すればよい。
- ・探究性を高める根幹は我慢強さなどの非認知能力を高めるような体験活動をする必要がある。自然体験活動などから問いを生むことも有用。
- ・松浦高校と小中学校が目指すところが一緒になっている。中学校との連携で中学生も刺激を受けている。小学生にも連携をしてもいいのでは。
- ・校則見直し委員会のように、自分たちが出した意見で学校が変わるという経験は、コミュニケーション能力やどういうメリットを提示しようか等、探究の下地になる。

【次年度への反映】

- ・生徒の活動を単なる提案に終わらせず実践活動にまでつなげ、最後までやりきるような活動計画を考える。
- ・探究性を高めるために、まつナビ・プロジェクトだけでなく、各教科で「問い」を生み出すような授業研究や改善を行う。

2 - 5 学校外の組織等との協働

(1) 中高連携

志佐中学校との合同講演会・ワークショップ

○日時：令和5年11月8日(水) 14:05～15:45

○目的：・講演を通じて、生徒のキャリアプランニングの視野を広げ、将来の夢や自らの在り方を考え、ワークショップを通じて、対話の楽しさや自らの考えの深まり・広がりを実感する機会とする。

○内容：ワークショップ

- ・生徒が中心となって行った。(話し合う内容の決定・当日の講演会・ワークショップの進行など)
- ・メンバー：生徒会役員の1年生(5名)、2年生(4名)
- ・事前に日賀さんと2～3回オンラインで打ち合わせを行い、テーマを決定した。

○対象：松浦高校1・2年生と教職員、志佐中学校1・3年生と教職員

○講師：株式会社ハッシャダイ 代表理事 勝山 恵一 氏
有限会社ペンダコ 代 表 日賀 優一 氏



地歴公民科地域課題の解決に取り組む「地域素材授業」(地歴公民科)

○日時：令和5年11月10日(金) 13:30～15:30

○目的：地域調査の手法を学ぶと同時に、松浦市の良さを発見する機会とする。

○内容：

- 12:45～13:00 本校地歴公民科教員と事前打合せ
- 13:10～13:30 導入・活動内容説明
- 13:30～14:30 志佐中生との合同地域調査
- 14:40～15:30 指導助言

○対象：松浦高校1年生 志佐中2年生+社会科、地歴公民科教員等

○指導助言：長崎大学 人文社会科学域 大平 晃久 准教授



(2) まつうら高校応援団・・・協力・参加等いただいた内容

- 3月～4月：説明会 応援団に正式登録
- 5月：1年生まつうら未来講演会 8事業所参加【p20参照】
- 7月：1年生仕事図鑑インタビュー 応援団とその他の事業所を含めた20事業所による協力【p21参照】
- 9月：1年生仕事図鑑報告会への参加(20日)【p21参照】
2年生校内発表会への参加(27日)【p26参照】
- 12月：NHK長崎生放送に参加(7日)【下記参照】
- 1月：浦崎太郎先生講演会に参加(11日)【p52参照】
- 3月：2年生市内インターンシップ(12～14日)

12月7日 NHK長崎「ぎゅっと長崎」で本校のまつナビ・プロジェクトの取組が、まつうら高校応援団の方々と一緒に紹介されました。



(3) 外部コンテストやイベントへの参加
外部コンテスト参加

- 9月：ビジネスプランコンテスト (日本政策金融公庫)
- 9月：地方創生政策アイデアコンテスト (内閣府)
- 10月：みらい甲子園 (SDGs QUEST)
- 12月：長崎県アイデアコンテスト (県高校教育課)
- 1月：長崎県アントレプレナーシップゼミ (県高校教育課)
参加した3年生のグループの発表が最優秀賞を受賞
- 2月：マイプロジェクトアワード長崎サミット (認定NPO法人カタリバ)

地域課題解決へ高校生ビジネスプラン
「Hi! de ナガサキ」最優秀
かくれんぼイベントで収益

県庁であり、「かくれんぼ」のイベントを通して地域活性化を図る「Hi! de (ハイド) ナガサキ」が最優秀賞に選ばれた。

県教委の「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」の一環で3年目。地域を担う次世代のリーダーや起業家精神(アントレプレナーシップ)を持つ人材を育成する目的で開く。本年度は県立高校の生徒20人が参加。昨年6月以降、県内の起業家や銀行員からビジネスについて学んだり、事業アイデアを出し合ったりする研修を重ねた。発表会では計6チームが、それぞれのビジネスプランを起業家らの前で発表した。

最優秀賞は、大村高2年の(17)、松浦高3年の(18)、諫早商業高3年の(19)のチーム(18)のチーム。廃校舎などを活用し、100人規模でかくれんぼをするイベントを提案した。参加者が獲得したポイントを地域のお店で使えた。

「や起業家精神(アントレプレナーシップ)を持つ人材を育成する目的で開く。本年度は県立高校の生徒20人が参加。昨年6月以降、県内の起業家や銀行員からビジネスについて学んだり、事業アイデアを出し合ったりする研修を重ねた。発表会では計6チームが、それぞれのビジネスプランを起業家らの前で発表した。」

「Hi! de ナガサキ」が最優秀賞に選ばれた。

県教委の「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」の一環で3年目。地域を担う次世代のリーダーや起業家精神(アントレプレナーシップ)を持つ人材を育成する目的で開く。本年度は県立高校の生徒20人が参加。昨年6月以降、県内の起業家や銀行員からビジネスについて学んだり、事業アイデアを出し合ったりする研修を重ねた。発表会では計6チームが、それぞれのビジネスプランを起業家らの前で発表した。

最優秀賞は、大村高2年の(17)、松浦高3年の(18)、諫早商業高3年の(19)のチーム(18)のチーム。廃校舎などを活用し、100人規模でかくれんぼをするイベントを提案した。参加者が獲得したポイントを地域のお店で使えた。

「や起業家精神(アントレプレナーシップ)を持つ人材を育成する目的で開く。本年度は県立高校の生徒20人が参加。昨年6月以降、県内の起業家や銀行員からビジネスについて学んだり、事業アイデアを出し合ったりする研修を重ねた。発表会では計6チームが、それぞれのビジネスプランを起業家らの前で発表した。」

ビジネスプランを発表する高校生

＝県庁

1月30日長崎新聞

外部イベント参加

6月：平戸市「軽トラ市」(まつナビ「イベント開催班」)

8月：こども食堂(まつナビ「子育て探究班」)

11月：松浦マーケット(まつナビ「お菓子開発班」)

12月：松浦こども博(有志：全学年から20名) など

(4) まつナビ支援金制度

生徒のまつナビ活動を経済的に支援することを目的として、松浦市より以下の条件等で上限額3万円程度の班活動費の申請ができる制度である。なお、生徒は次のページに示す「申請書」を作成し、担当教員のチェックを受けた後に、校長及び松浦市長へ提出して選考、支給される。

支給対象

松浦高等学校の「まつナビ」の中で、地域課題解決や地域活性化のためのプロジェクトに取り組んでいるグループもしくは個人

支給条件

申請書を提出の上、生徒による提案が、松浦市長及び松浦高等学校長から認められた場合に支給する。なお、申請にあたっては、必ず担当教員と相談の上、提出する。

支給額

1つのプロジェクトへの支給上限額：30,000円(予算上顎30万円)

支給方法

担当教員が、物品購入伺いを提出することで支給。

申請方法

申請用紙に必要事項を記入し、担当教員の承認後、まつナビ担当に提出する。

申請日

随時申請を受け付ける。申請が出てきたものを、月に1度程度のペースで松浦市及び松浦高等学校にて審査を行い、承認を受けた団体へ随時支給する。

申請内容

- ・プロジェクトの概要及び目標
- ・申請の目的
- ・支給金の使途
- ・申請金額と内訳

選考

申請のあったプロジェクトの中から、以下の条件を考慮して支給限度額内で選考する。

- ・地域課題解決や地域活性化のためのプロジェクトであること
- ・計画の緻密性
- ・予算支給の必要性

結果通知

プロジェクト担当者より、担当教員へ文書にて通知する。

今年度の実績例

令和5年度 まつナビ支援金 申請書

令和5年7月24日

松浦市長 様
松浦高等学校長 様

申請者名 〇〇 〇〇
担当教員 _____ 印

下記のプロジェクトについて、「まつナビ支援金」を申請します。

記

申請グループ名	まつナビ10班
解決したい課題等	松浦市の空き家問題を解決すること。 学生が集まる場所が松浦市にはない。
プロジェクトメンバー名	(年・組・番号・名前) 2年1組 〇〇 2年3組 〇〇 2年2組 〇〇
プロジェクトの目的	松浦市を元気にとすること、若者が集まれる場所をつくる。また、松浦市の空き家問題の解決策を考えることを目的としている。
プロジェクトの内容・計画	・松浦市には現在2000戸以上の空き家がある。これを使って学生が無料で集まったり、待ち合わせをしたりする場所を作りたい。 ・松浦市の空き家である旧「寶屋旅館」を訪問。床などがもろく使えそうにないことがわかった。
現在の進捗状況	・空き家の再設計の方法がわからない。 ・ここ何年かの先輩たちの研究を見ても、先輩たちは、最後まで空き家問題について研究した例はなかった(どこかであきらめている) ・私たちはあきらめたくないの、何かヒントをもらいたい。
申請金額	10,000円
支援金を必要とする理由	慶応義塾大学未来構想キャンプに参加して、空き家の再設計の手法などを学びたいから。
支援金の用途(具体的に)	宿泊代、フィールドワーク代等の参加費
プロジェクトの協力者・協力団体	NPO法人〇〇〇〇

(5) 学校外の組織等との協働における成果検証・評価

【成果】

- ・地域科学科の生徒（１年生３７名）が、松浦市立志佐中学校３年生の地歴公民科（地理総合）の授業「地域調査」に参加する機会を設定し、中学生とともに「松浦市志佐地区」のフィールドワークを行った。
- ・看護師または保育志望者を中心として夏休みに乳幼児ふれあい体験を行った。
- ・松浦中央病院と松浦消防署との合同演習「大規模災害訓練」に生徒が参加し、地域の防災意識に対する興味・関心を高めた。
- ・長崎県立大学での一日大学生体験において、生徒による説明や教授の授業を通して、研究方法を学び、生徒のキャリア意識の高揚を図ることができた。
- ・２年生は長崎県立大学との連携による中間発表会を実施し、大学生から直接アドバイスをもらい研究の方向性を確かめた。
- ・生徒が外部の様々な研修会に参加した。
- ・松高学び場をよく利用していた生徒が、総合型選抜試験や推薦型入試で国公立大に合格できた。

【課題】

- ・地域の事業所等、連携先が限定的である。
- ・大学生や卒業生（まつナビサポーター）の活用が限定的一時的である。
- ・学校外の組織等との協働した取組が計画的・継続的なものとなっていない。
- ・外部コンテストで賞を取るための研究まで至っていない。

【次年度への反映】

- ・医療機関だけでなく、生徒一人ひとりのキャリアプランに応じた連携先を開拓する。
- ・生徒のキャリア形成力の向上という観点から、外部との連携の目的を明確にしながら、まつナビ・プロジェクトの年間計画を作成する。
- ・生徒が外部コンテスト等へより積極的に応募して、外部からの評価を得られるように、研究テーマに応じたコンテストを紹介する。

2 - 6 コーディネーターの活動内容（大内康仁 氏）

（1）令和5年度 学校説明会・オープンスクール、サイバーセキュリティボランティア等の活動実績

月	市内小・中学校校長会	オープンスクール 市内での学校説明会 (生徒・保護者向け)	市外での 学校説明会等	進路担当者面談 交流授業 校内研修	サイバーセキュリティ ボランティア
56	小中校長研修会での 学校経営説明：6/9 学校説明会（松高） ：6/21	福島中：5/25 御厨中：6/27（生徒） 今福中：6/28 調川中：6/30 （生徒・保護者）	吉井地区：6/22 平戸地区：6/19 伊万里市立国見中 ：6/27		
7	小中教頭研修会での 学校説明：7/14	御厨中：7/3（保護者） 志佐中：7/7 （生徒・保護者） オープンスクール ：7/26		福島中：7/28 調川中・鷹島中 ：7/31	志佐小：7/10 志佐中：7/18 御厨中：7/29
8				今福中：8/8 御厨中：8/18 志佐中：8/31	
9				御厨中：9/21	
10		オープンスクール ：10/14 鷹島中：10/11 調川中：10/13 調川中が松高文化祭に 出店：10/14 志佐中：10/24			
11				志佐中との生徒 向け合同講演会・ 研修会：11/8 志佐中との交流 授業：11/10	福島中：11/2 今福小：11/8 調川中：11/13 上志佐小：11/14 福島養源小：11/17
12					平戸中：12/11 青島小中：12/12 星鹿小：12/13 今福中：12/15
1		御厨小：1/16			平戸市田助小 ：1/19
2		志佐小：2/14 調川小：2/20			
3					

（2）R5「高校コーディネーター全国プラットフォーム事業/文部科学省委託事業」経過報告

研修目的

よりよい教育を通じたよりよい社会づくりに向け、関係機関等との連携・協働による高等学校の特色化・魅力化及び人づくり・つながりづくり・地域づくりに従事する専門人材の育成。

○参加者

指定校の高校 CN、高校教諭、指定校以外で参加を希望する高校 CN、管理機関職員

○研修内容

7 / 1 3 . 1 4	対面研修	「協働体制構築の基本のキ」
8 / 2 2	オンライン研修	「社会に開かれた教育課程と協働体制づくり」
9 / 8	オンライン研修	「総合的な探究の時間と新学習指導要領から進路へ」
1 0 / 5	オンライン研修	「カリキュラム・マネジメント」
1 1 / 2 1	対面研修	「総合的な学習の時間のコーディネート」

12 / 11	オンライン研修	「協働論と学習論」
1 / 10	オンライン研修	「社会資源、地域資源の発掘方法」
2 / 21	対面研修	「1年間のふりかえり」ふりかえり方法

研修記録

1 対面研修 島根

- ・協働するために必要なことを考えるワークショップ
- ・コミュニケーションのタイプを知る
- ・他者を知るための方法 「聴く」
- ・先輩 CN カタリ場 等

2 オンライン研修

講師 菅野 祐太氏

兵庫教育大学教育政策リーダーコース准教授（岩手県立大槌高等学校カリキュラム開発等専門家）

「社会に開かれた教育課程と協働体制づくり」

「なぜ社会に開くのか？」

教育の目的や学習指導要領を紐解く

「学校と社会を開くとはどういうことか？」

コミュニティスクールなど協働体制の方法を理解する

- ・「教育の目的」について

2つの視点

- ・国と地域の文化を伝えていく（社会の中で必要な力）
- ・子どもたちの可能性を伸ばすための必要な力を育む（人格の完成）

- ・学習指導要領から

自らの学校・地域の実情に合わせて個別最適な解答を考える

- ・大槌高校の事例

大槌高校は本当に大槌町に必要なのか？

3 オンライン研修

講師 浦崎太郎氏（大正大学 地域創生学部教授） 中村玲詞氏（島根大学教育センター准教授）

「総合的な探究の時間とは何か」～新学習指導要領をふまえて理解する

「探究」・・・調べ学習で得た新たな疑問をもとに新たな課題を見つける学びが探究型思考となる。「収集した情報をもとに新たな問いが生まれたいだろうか」と主体的に考えることで、調べ学習が探究的な学びになっていく。探究的な学びは情報・知識をどのようにして得るかがポイント。机上だけでなく、フィールドワークや様々な体験を通した（人 もの こと）との出会いから「誰かの役に立つ・喜ばれる」を通して得る情報・知識が重要。地元を基盤としたフィールドワークや様々な体験をすると、より将来の進路や人生に影響を与える自分ごととなる。

浦崎氏より

- ・探究を軸としたキャリア形成と教科学習
- ・探究に学究性を織り込む重要性
- ・社会的自立に向けた学校の役割
- ・新学習指導要領と高大接続
- ・大学進学や社会的自立に向けた探究手順
- ・地域探究と教科をどうつなげるか？

「総合的な探究の時間」を「社会につなげる」とはどういうことか

中村氏より

- ・生徒本人が興味・関心を持てるものは何か
- ・テーマ設定 ・出会いとマッチングが重要 そのために個別対応が不可欠
- ・地域に出てやりたいことを探る機会、生徒自身が社会とかかわる機会をつくる。

4 オンライン研修

講師：大阪教育大学 田村知子

「カリキュラム・マネジメント」

カリキュラム・マネジメント理論に基づいて取り組んだある高等学校の課題解決過程

J.ハッティ Hattieのメタ分析の理論

学校の達成を最大化するのは、1 教師の信用性 2 自己効力感 3 協働学習

三者面談のあり方

生徒に学びの様子をプレゼンさせる これについて保護者、教師が質問する

A - A - Rサイクルを回す

Anticipation 見通し Action 行動 Reflection 振り返り

ワークショップは、個人の自律性に基づく組織化を促す、合意形成や協働のためのツール
相手への「信頼」が基盤

カリキュラム・マネジメントのポイント

「つながり」をつくろう・・・カリキュラムの中に 人と人との間に
生徒の学びをよく見つけて、生徒の姿と教育活動の関係を語り合おう！
ともに学びづくりをする仲間を増やそう！

5 対面研修 福島

「総合的な探究の時間のコーディネート」

会場：福島県立未来学園（〒福島県双葉郡広野町中央台

内容：「社会に開かれた教育課程を実現するための場づくりと生徒伴走」

講師：福島県立未来学園高等学校教諭 林裕文

6 オンライン研修

講師：東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授 佐藤真久

「VUCA社会に対応し持続可能な社会を創る」

～ 複雑性に向き合い、学習と協働の往還による探究モードへの挑戦

課題図書『ソーシャル・プロジェクト12ステップ』を読み、これまでのシリーズ研修プログラムも踏まえて、
自身の有するコーディネーター像について、変わったこと、変わらなかったことについて考える。

7 オンライン研修 「社会資源、地域資源の発掘方法」

講師 国立教育政策研究所 志々田まなみ

「学校と地域・社会の協働」

～ 生涯学習の理念から、学校と地域・社会の教育的な役割を理解する

「地域・社会との協働がすすんだ学校とは？」

保護者や地域住民等の意見・アイデアをもとにした活動が積極的に実施される学校

郷土や地域課題に関する学習、地域貢献活動等を積極的に実施している学校

生徒と地域の人々が交流したり、一緒に活動する機会・場を積極的にもうけている学校

地域からの学校支援ボランティア活動により教育の充実・改善が進んでいる学校

企業・大学等と連携して専門性の高い教育や実習を実施している学校

地元の産業やコミュニティの発展を担う人材育成を強く意識している学校

地域に必要な不可欠な存在として信頼され、支えられる学校

8 対面研修 東京 「1年間のふりかえり」

目的：よりよい教育を通じたよりよい社会づくりに向け、関係機関との連携・協働による高等学校の特色化・魅力化
及び人づくり・つながりづくり・地域づくりに従事する専門人材の育成

2/21 13:00～ 文部科学省東館3階講堂

テーマ：「1年間を仲間と一緒に振り返り、次の一手を考える」

2/22 13:00～ 文部科学省東館3階講堂

テーマ：高校コーディネーターの導入が高校改革、高等学校の特色化・魅力化を推進する効果があることを広く普及・発信する

(3) 市内小中学校との連携における成果検証、評価

中高連携授業や学校説明会の実施

【成果】

- ・市内の小・中学校校長研修会と連携を図り、各校での生徒及び保護者向け学校説明会を実施するとともに、各中学校の進路指導担当者や担任との意見交換を行った。
- ・松浦市外の中学校を訪問し、昨年よりも早い段階から多くの学校説明会を実施した。
- ・中高合同の講演会・研修会を実施でき、中高生の企画・運営チームでその内容を検討することができた。

【課題】

- ・ 中学校教員とのより密な情報交換を行うこと。
- ・ 中学生の保護者に対する地域科学科の魅力を浸透させること。

【次年度への反映】

- ・ 教科指導に関する中高が連携した研修会および公開授業の実施。
- ・ 小・中学校教員および保護者向けの説明会の効果的な開催。
- ・ 小学校教員および保護者向けの説明会の効果的な開催。

松高生による課題研究発表会の参観

【成果】

- ・ 2年生による課題研究発表会を、地域科学科1年生全員が参観した。また、市長、市教育長、市議会議員および市役所職員、本事業管理機関等が参観した。
- ・ 校内における中間発表会を含めて、発表会に地域住民や大学生等を招いて継続的な指導・助言を受けられる体制を構築する。

【次年度への反映】

- ・ 各中学校に生徒が出向いて行き、研究内容を発表する場を設定する。
- ・ 課題研究発表会を幅広く地域住民に公開する。
- ・ 課題研究について中学生と意見交換できる場を設定する。

(4) 地域との連携における成果検証、評価

松浦商工会議所青年部（松浦Y E G）との連携

【成果】

- ・ 松浦市で起業している若手事業者と生徒との交流の機会をつくり、生徒が起業家の「郷土松浦」への思いや実践事項を知る機会となった。
- ・ 若手事業者との交流の場を設けたことで、生徒の学びたいこと（知りたいこと）を課題の設定につなげることができた。

【課題】

- ・ 生徒が地域協働を進めるための事業所等とのマッチングがまだ不十分。

【次年度への反映】

- ・ 松浦Y E Gとの連携を密にし、学校行事とも連携を図りながら、「松浦こども博」の運営への生徒の参画を円滑に進める。
- ・ 地域連携による松浦高校と地元の大人の関わる人数をさらに増やす。

「まつうら高校応援団」の活動に向けた協力依頼

【成果】

- ・ 令和5年3月に設立し、「まつナビ・プロジェクト」の充実、特に課題解決の過程において、生徒が地域の人材から直接助言を得られるようになった。

【課題】

- ・ 「まつうら高校応援団」の関与が限定的である。

【次年度への反映】

- ・生徒が地域の課題を見出だすための情報を提供してもらったり、課題の解決に向けた助言を受けたりする機会を設ける。
- ・「まつうら高校応援団」に加盟している地元企業等でのインターンシップの継続実施。
- ・「まつうら高校応援団」に加盟している地元企業等に対して、「まつナビ」のテーマ等の情報を積極的に提供し、より一層の協力を依頼する。

2 - 7 新学科設置の関係者への説明及び成果普及のための活動実績

(1) 生徒・保護者対象

【成果】

近隣の中学校を対象とした学校説明会、地区別相談会等とおした地域科学科の学びの特徴に関する説明及び質疑応答とおした疑問解消の取組。

中学校の社会科の授業(地域調査)等に地域科学科の生徒が参画した合同授業の実施。
文化祭やオープンスクールにおける生徒による「まつナビ」の実践発表及び地域科学科の特色の説明。

ホームページや学校だより等による地域科学科に関する情報発信。

コーディネーターと中学校との連携を密にした情報交換。

【課題】

地域科学科の理解を深めるために中高の教員間の情報共有の機会を増やす。

地域科学科に対する中学生の理解を深めるために、中学生と高校生の合同授業や探究活動のコラボレーションの機会を増やす。

【次年度への反映】

地域科学科における学びの魅力を、中学生や保護者にもわかりやすく具体的に継続的に説明していく。

市内中学生に意識調査等を実施し、本校が「選ばれる学校」になるための継続的な分析等を行っていく。

小中学校での「まつナビ・プロジェクト」の説明会において、生徒が取組の内容を説明することにより、本活動の成果の普及を図る。

(2) 地域住民等対象

【成果】

ポスターやチラシなどを使った「地域科学科」の周知徹底(松浦市役所発行の市報とともに松浦市内の全世帯に毎月配布)

地域課題解決型学習「まつナビ・プロジェクト」を活用した情報の発信
管理職、コーディネーター等が継続的に中学校訪問を行い、地域科学科の取組について丁寧に説明を行った。(特に進路実現に向けての体制とカリキュラムについて)
令和5年度入試と比較して、令和6年度の地域科学科の志願者18人増加した
(R5:34人、R6:52人)

【課題・次年度への反映】

「まつナビ・プロジェクト」の成果・普及をとおして入学志願者増に結びつける。
「まつナビ・プロジェクト」発表会を地域住民等にも一般公開する。

(3) 県内外の自治体・学校対象

県内県立高校9校とネットワークを構築し、研修会を実施

九州地区普通科校長会での実践報告

本校を訪問した以下の教育委員会・高校に新学科の状況について説明

6月21日(水)	大阪府教育委員会	佐賀県立鹿島高校
6月26日(月)	愛媛県市東温高校	
10月12日(木)	愛知県立美和高校	
10月25日(水)	大阪府立長尾高校	
11月8日(水)	佐賀県立白石高校	
12月1日(金)	愛知県立惟信高校	
12月14日(木)	兵庫県立千種高校	
2月13日(火)	鹿児島県立指宿高校	
2月15日(木)	鹿児島県立大島高校	
2月16日(金)	鹿児島県立大口高校	

2-8 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

【成果】

本事業の指定校となり、生徒の幅広い課題研究活動が可能となっている。また、松浦市や地域の事業所等の職員が生徒の活動に伴走したり、アドバイザーとして専門的な助言をくれたりしている。

松浦市長を中心としたコンソーシアム会議等、地域を巻き込んだ協力体制や生徒の教育活動を支援する持続可能なシステムは構築されている。

【課題】

特定の事業所に、生徒の活動が限定されている。

学校(生徒)と地域との協働活動におけるマッチング体制の構築。

令和7年度以降のまつナビ・プロジェクト推進のための組織及び生徒の活動費の確保。

【次年度への反映】

構築できたコンソーシアムの維持・発展させるため、本事業が終了したあとの令和7年度からコミュニティスクール(学校運営協議会制度)に移行する。そのための調査・

研究を行い、導入に向けた準備を進める。

「まつうら高校応援団」の活動を軌道にのせ、地域からの支援を幅広く受けられる体制づくりを進める。

プロジェクトチームによる意見交換等を実施し、具体的な活動内容や目的の共通理解及びスキルを身に付けさせるための指導法の向上や生徒に伴奏するマインドセットの醸成を図り、まつナビ・プロジェクト活動の充実を図る。

令和7年度以降の運営指導委員会・コンソーシアム等の組織の在り方および予算措置についての検討をはじめめる。

「まつナビ・プロジェクト」に係る生徒の活動費の在り方について検討をはじめめる。

2 - 9 他の事業との関係

【成果】

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の成果を踏まえた継続的な取組の実践。

- ・ループリックのさらなる改善
- ・小高・中高・高大連携の強化
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築

立命館宇治中学・高等学校のWWLコンソーシアムに加盟。

- ・オンラインなどによる教員間、生徒間交流の機会の設定予定

産業能率大学と探究活動への支援に関する包括連携協定を締結した。

三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる「高校魅力化評価システム」を導入し、より客観的なデータによる分析を行うことができた。

【次年度への反映】

「高校魅力化評価システム」による評価結果を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。

3 実施計画

3 - 1 活動目標

県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

3 - 2 実施計画

県内外の「地域に根ざした高校」のネットワークの構築と協働による、参加各校の活性化

3 - 3 活動内容

(1) 「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究等を実施

地域に根ざした高等学校」ネットワーク第3回研修会/第1回松浦高校市民講座

- ・目的：「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の研修を通じて、学校の魅力化・特色化や探究活動等に関する情報共有を図り、参加校における学校改革の一助とする。
- ・日時：令和5年6月30日（金） 12：40～16：40
- ・講師：岩本 悠氏（一般社団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事）
- ・場所：生徒向け研修会：松浦高等学校体育館
- ・講演（60分）：演題「『越境』と『探究』による自己開拓 ～新時代のキャリア形成に向けて」

「地域に根ざした高等学校」ネットワーク第4回研修会

- ・日時：令和5年10月27日（金） 15：00～16：40
- ・講師：菅野 祐太氏（兵庫教育大学教育政策リーダーコース 准教授）
- ・場所：松浦高等学校コモンホール
- ・日程： 高校教育課あいさつ（5分）
- ・講演（60分）演題「アンラーンのすすめ ～学校の魅力化、地域との協働、主体性の育成～」
- ・リフレクション （15分）
- ・質疑応答 （20分）



高校と地域の協働による魅力ある高校・地域・未来づくりに関する研修会

- ・日時：令和6年1月11日（木） 14：00～16：00
- ・講師：浦崎 太郎氏（大正大学地域創生学部 教授）
- ・場所：松浦高校コモンホール
- ・講演（120分）：演題「負けに不思議の負けなし～知を軽んじて自滅する市町村～」

（2）生徒間交流

慶応義塾大学（SFC）未来構想キャンプ

- ・日時：8月2日（水）～3日（木）
- ・主に高校1、2年生を対象とし、坂のまちとしても知られる長崎県では、傾斜地にある空き家を利活用した場を訪問し、実現可能な、かつ高校生らしいユニークな視点をいかした地域の課題解決のための実践知の創造に挑んだ。
- ・「未来構想キャンプ」は、はじめて出会ったもの同士が多様な知識や知恵を出し合い、未来につながる「実行力」について体験的に考えるための場として企画された。参加した本校2年生は、キャンプに集った仲間たちと、答えの決まっていない問題に向き合いながら、コミュニケーションをとることで、柔軟な発想やヒラメキが生まれたとのことであった。



鹿児島県立大島北高校生とのオンライン交流会（「はしっこ会議」）

- ・日時10月4日（水）
- ・内容：お互いの探究活動の途中経過を報告し、その活動の中で行き詰まりを感じていることや成功事例を共有することで、今後の活動に活かしていく。各プロジェクトのリーダーが参加。

全国グローバルリーダーズサミット

- ・日時：1月21日（土） 22日（日）
- ・内容：宮崎県飯野高校で開催された、グローバルリーダーズサミットに本校1年生が参加した。本校の探究活動発表や仕事図鑑サミット、生徒間交流会（フェス）、コカ・コーラ工場見学や道の駅、京町温泉街フィールドワークなどを行った。本校生徒も積極的に活動していた。



【成果】

- ・ネットワーク校だけでなく、市民向けの研修会も開くことができた。
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の教員研修を通じて、学校の魅力化・特色化や探究活動等に関する情報共有を図ることができた。
- ・学校間の情報共有を通じて、参加者の意識の高揚を図ることができた。

【課題】

- ・参加各校の取組み内容に踏み込んだ情報共有と意見交換の時間設定が不十分である。
- ・参加についてももう少し早い時期から、案内すべきであった。
- ・情報共有後の担当者間での振り返りが不十分である。

【次年度への反映】

- ・松浦市を中心とした会場で担当者間の対面研修会を実施する。
- ・参加各校の生徒による生徒間交流を実施する。